



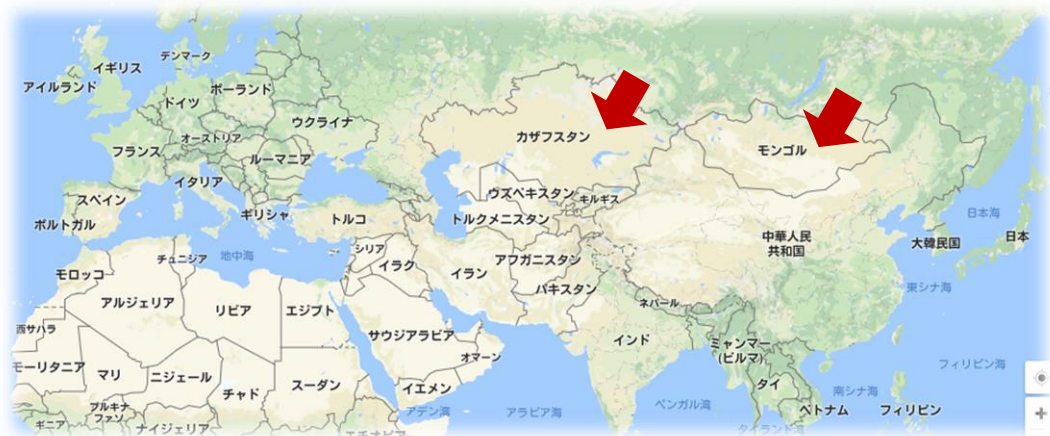
開発協力 ODAって何？

開発協力とは、「開発途上地域の開発を主たる目的とする政府及び政府関係機関による国際協力活動」のことで、そのための公的資金を ODA (Official Development Assistance (政府開発援助)) といいます。

政府または政府の実施機関は ODA によって、平和構築やガバナンス, 基本的人権の推進, 人道支援等を含む開発途上国の「開発」のため、開発途上国または国際機関に対し、資金(贈与・貸付等)・技術提供を行います。

(外務省ホームページより参照)

参議院 ODA 調査 派遣



中央アジア・東アジア地域を調査

平成 29 年 9 月 11 日 ~ 19 日

大島九州男、参議院 ODA 調査第 1 班の議員団として派遣される

カザフスタン共和国



●カザフスタンの首都アスタナにて、アスタナ空港改修計画を視察

97 年の遷都の際、故黒川紀章氏のデザインによる新首都アスタナ市の都市計画が行われ、同空港はその一環で建設されました。最近建設された新ターミナルとともに、航空輸送需要の拡大に対応し、同市のシンボルとなっています。

●トカエフ上院議長との会談

トカエフ議長はナザルバエフ大統領に次ぐ国家の No.2 であり、今回の参議院 ODA 調査団の訪問を歓迎し、日本の ODA への謝辞と今後の二国間関係の発展への期待を述べられました。その後、自ら本会議場も案内してくださいました。



●アスタナ新首都

総合開発計画研究所を視察

97 年にナザルバエフ大統領のリーダーシップにより、東南部のアルマティからアスタナへの遷都が決定されました。この後、国際コンペで優勝した故黒川紀章氏のデザインを基に新首都の開発計画が策定され、今日に至っています。

●アスタナ第二小児病院を訪問

カザフスタン東部のセミパラチンスク周辺地域には旧ソ連時代の核実験跡があり、地下水や土壌の汚染による健康被害等が問題となっていました。わが国は ODA を通じて大分県立看護科学大学、長崎大学などが地域医療体制の改善を支援し、カザフ国民に感謝されています。



●スレイメノフ国民経済大臣との会談

スレイメノフ国民経済大臣は、日本のこれまでの ODA への高い評価と謝辞を述べるとともに、約 65 億ドルに上る日本企業の投資を歓迎、今後の二国間関係の更なる進展に期待する旨を述べました。

●ストロイクラス社の現場を視察

ストロイクラス社は、JICA 研修の卒業生でカザフスタン建設企業連盟会長・元国会議員のイエルガリエフ氏が経営する建設会社で、朝礼、ミダンドリ、現場会議による各部門間の意思疎通、安全第一等、日本式の現場管理を取り入れた「カイゼン(改善)」により、業績を上げています

●カザフスタン日本人材開発センターを訪問

カザフスタン日本人材開発センターは二〇〇〇年以降、国立ナルホーズ大学と JICA が協力し、カザフスタンの市場経済化支援の一環としてのビジネス人材の育成、日本語教育、文化交流を行っており、多くのカザフ人が日本について学んでいます。



『地域の皆様との勉強会』を各地で開催中
参議院議員として国政に携わった十年の取り組みや、問題が山積となった先の国会での報告を中心に勉強会を開催しています。今後も、大島九州男の国政報告会や意見交換会を、皆さんの地域でも行う予定です。近隣で開催の際は、お気軽に是非ご参加ください。

「勉強会」開催場所 募集

勉強会をご希望の方は、大島九州男事務所までお声かけください。大島九州男が、全国各地でも足を運びます。皆様のお声を聞かせてください。



参議院 ODA 調査 派遣 その2



モンゴル

●首都ウランバートルにある

ジュルウル社を訪問

ジュルウル社は、日本のODA支援による低金利融資(ツーステップローン)を受け起業した洋菓子店で、ウランバートル市内を中心に繁盛しており、一次産業が中心を占めてきたモンゴル経済の活性化を担う優良中小企業として注目されています。



●日本モンゴル教育病院建設サイトを視察

モンゴルではこれまで医科大学卒業後の研修体制が整っておらず、本病院は同国初の大学附属病院として医療サービス向上への貢献が期待されています。

またモンゴル国立健康科学大学のカリキュラムには日本の柔道整復術が導入され、モンゴルの伝統医療と相まって国民医療への貢献が期待されています。



●ダンバダルジャール

日本人死亡者慰霊碑に献花

第二次世界大戦後、モンゴルにはシベリアに抑留されていた日本人一万二千三百十八人が移送され、土木・建設事業等の強制労働に従事し、約千七百人の日本兵が亡くなっています。同墓地はモンゴル国内16カ所にある日本人墓地の一つで、八百三十五柱ほどのご遺骨が納められていました。

(一九九四年から遺骨返還事業が実施され、現在ご遺骨はすべて日本に持ち帰られています。)



●モンゴル国立がんセンターを訪問

モンゴル国立がんセンターはがんの治療、早期発見等の事業を行っており、年間10万人の外来患者が訪れ、その半数は地方からの方との事です。

現在青年海外協力隊として、看護師の國政亜沙美さんが活躍しており、看護記録の取り方をはじめ日本式看護を伝え、現地医療に貢献されています。



●ウランバートル

第四火力発電所を視察

モンゴルでは旧ソ連時代に建設された火力発電所が今も稼働していますが、ロシアから不足分の電力を輸入する等、老朽化した施設では十分電力をまかなえず日本の支援で施設の改修等に取組んでいます。



●ボルガントヤール大蔵副大臣との会談

ボルガントヤール大蔵副大臣はわが国のこれまでのODAへの謝辞を述べるとともに、現在行われているモンゴル国税庁の徴税体制充実への研修支援の成果、今後の二国間関係の進展等についての期待を述べられました。

●新モンゴル高校を訪問

90年の民主化以降首都ウランバートルには急速に人口が集中し、モンゴル国内では十分は教育体制が整っていませんでした。同高校は二〇〇〇年十月に日本への留学を経験したガルバドラツハ氏が日本有志の支援を基に、日本語教育をはじめ日本式教育を行う高校として開校し、現在は国内有数の進学校として人気を集めています。



国際会議

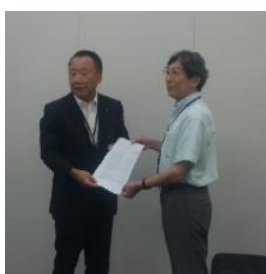
9月19日及び20日、大分県別府市で、アジア・太平洋国会議員連合(APPUC)第47回総会が開催されました。

大島九州男は、総会閉会式及び外務省主催のレセプションに参加しました。



団体要望

8月29日
日本私立学校教職員組合からの私学助成に関する要請を受けました



9月4日
全国教育管理職員団体協議会からの教育関係予算に関する要望を受けました。

